研究課題名

「当院における非典型細菌性髄膜炎と糞線虫症の関連性の検討：症例集積研究」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　H29中倫小第76号）

研究実施についてのお知らせ

　沖縄県立中部病院内科では、下記の後方視的観察研究を実施しております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成29年12月25日

【研究課題名】

当院における非典型細菌性髄膜炎と糞線虫症の関連性の検討：症例集積研究

【研究期間】

2018年1から2018年3月

【調査対象】

1993年1月から2015年12月に、当院に非典型細菌性髄膜炎（腸内細菌による成人髄膜炎、および培養陰性化膿性髄膜炎）で入院治療された方

【研究目的・意義】

　糞線虫症は沖縄を含む亜熱帯地域に分布する疾患で、慢性感染をきたすことが知られています。感染者の免疫状態が何らかの理由で増悪した場合には全身性播種をきたし、グラム陰性桿菌菌血症や髄膜炎、細菌性肺炎をきたしますが、この場合は致死率も高く、治療や救命に難渋することがあります。

沖縄中部地区の三次医療機関である当院では、長年非典型的髄膜炎（グラム陰性桿菌による成人の市中獲得細菌性髄膜炎、あるいは培養陰性・化膿性髄膜炎）と糞線虫症の関連が経験的に示唆されてきました。しかしながら、こうした非典型細菌性髄膜炎と糞線虫症の関連を調査した研究はこれまでに存在しませんでした。

これらの事実を踏まえ、当院にこれまで入院した非典型細菌性髄膜炎患者の臨床的・微生物学的特徴を検討し、非典型細菌性髄膜炎と糞線虫症の関連を調査することが、本研究の目的です。これらの研究結果は、今後当院のみならず、沖縄県や世界各国の熱帯・亜熱帯地域における、同様の症例の診断・治療に寄与することが予想されます。

【研究の方法】

過去の診療録（カルテ）から得られるデータのみを収集し、分析を行います。研究対象の方に新たな介入（検査・治療など）の依頼などを行うことはありません。

　【個人情報の取扱い】

　研究に用いられるデータは収集する段階で匿名化され、名前や住所などの個人情報を抽出することはありません。今回の研究で得られた結果は、学術雑誌で報告する予定ですが、その場合はすべて集積した数値のみを提示するため、個人を特定できるような情報を報告することはありません。また、本研究の目的以外に、得られた研究対象者のデータを使用することはありません。

【研究機関】

沖縄県立中部病院

【本研究に関する問い合わせ先】

沖縄県立中部病院 内科 向川原 充（Mitsuru Mukaigawara）

〒904-2293 沖縄県うるま市宮里281　電話：098-973-4111（内線2670）